

とくていひえいりかつどうほうじん さきも
特定非営利活動法人 未来守リネットワーク

～海－川－山をつなぐ(環境の保護・再生・中山間地域)再生～



アマモ種子 採取・移植活動



海藻米 田植え活動

経緯

- 水質悪化が進行した中海(なかうみ)を再生させる目的で、若手地元企業人が環境保護・教育・地域再生を行うため、平成16年に当法人を設立し活動を始めた。

取組内容

- 中海や宍道湖(しんじこ)で異常繁殖した紅藻類の「オゴノリ」等を刈り取り、海藻肥料として活用(SDGs)。
- 海藻肥料を使用する水田で、子供達が「田植え・稲刈り」に参加。
- 魚類・水生生物が産卵し稚魚や幼生の住みかとなるアマモ場の再生。

活動の効果

- 中海や宍道湖で異常発生している紅藻類「オゴノリ」等を刈り取ることで、水質浄化に寄与している。
- 刈り取った「オゴノリ」等は海藻肥料として利用。境港市では食育の観点から、この肥料で栽培された「海藻米」が学校給食に採用されている。また、「海藻米」を栽培する境港市、日野町、日南町、伯耆町では、各地区の子供達が「田植え・稲刈り」に参加することで食育につながっている。
- 会員・未来守リネットワークチャイルドクラブ・鳥取県西部地区・島根県安来市の小学生が参加し、中海の水質浄化・魚介類の産卵・育成場のための「アマモ類」の種子採取(6月)・移植活動(11月)による環境保全活動を通じて、環境教育につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

SDGsの観点から、宍道湖・中海の水質浄化のために刈り取った海藻を「海藻肥料」とし、国・県・市町村と連携して「海藻肥料」を使った農産物栽培を拡大させたいです。